

京都市立養正小学校 学校ニュース 学校評価

平成28年10月27日

校長 杉森 德行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp

学校教育目標 「子どもの良さを可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進」

学校評価の結果について

7月に、全校児童（低学年〈1, 2, 3年〉, 高学年〈4, 5, 6年〉に分類）、保護者、教職員に学校評価のアンケートをしました。児童のアンケートは、学校での学習や約束のこと、生活習慣のことなど25項目、保護者、教職員には、子どもについて、学校について24項目について質問しました。アンケート結果を基に考察し、これまでの成果と課題についてお知らせします。

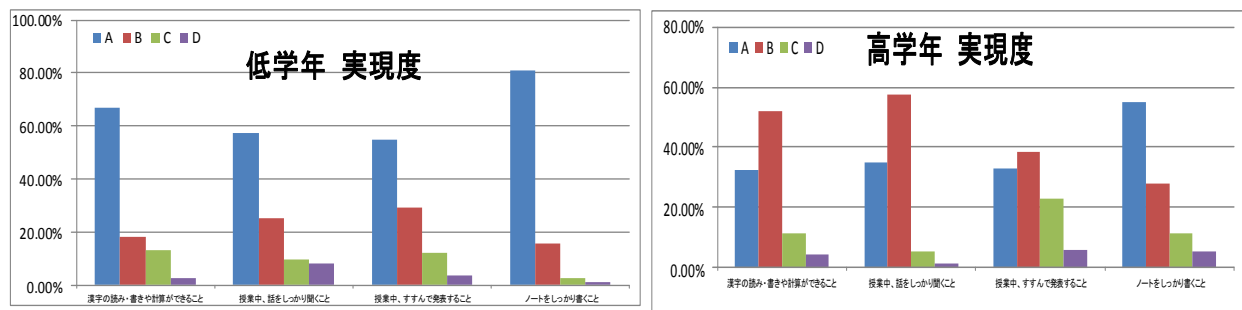
それぞれの項目について、重要度、実現度を回答してもらいました。（低学年児童は、実現度のみ）以下、グラフ等では、それぞれの質問に対する選択肢を次のとおりに示しています。

重要度：A重要である Bやや重要である Cあまり重要でない D重要でない

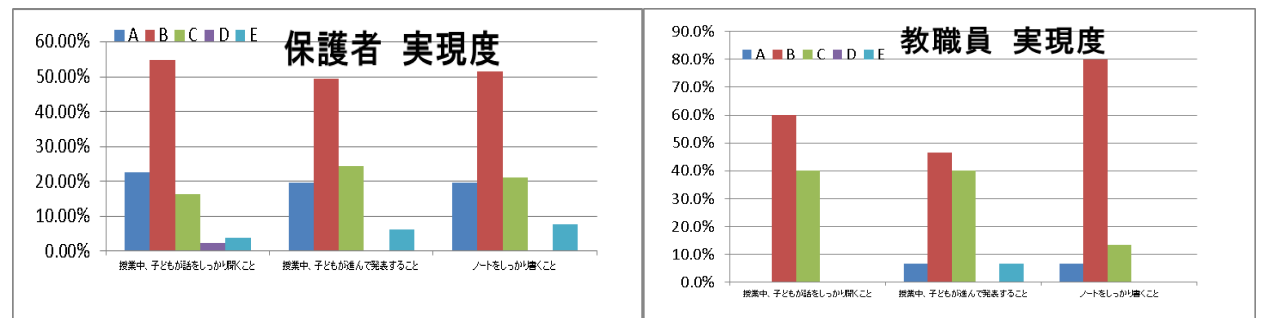
実現度：Aよく出来ている B 大体出来ている Cあまり出来ていない D出来ていない Eわからない

学習面について

養正小学校では、子どもの学力をつけるために、毎日の授業を大切にしています。今年度は、より豊かに生きていくために必要な力として『言葉の力』を身に付けることに力を入れて授業を展開しています。すなわち、「読むために書く 書くために読む」ことを中心に学習を進め、子どもたちに確かな学力を身に付けてほしいと考えています。子どもたちが過ごす学校生活の多くの時間が授業時間であり、充実した学校生活にするためには子どもたち一人一人が毎時間の学習内容が「わかること」や学習集団の中で「活躍できること」が重要と考えています。



上記のグラフを見ますと、前年度まで、本校が取り組んできた『書くことを通して思考力・表現力を育てる』ためのノート指導の成果が表れ、「ノートをしっかり書くこと」の実現度では低学年児童の約95%、高学年児童の約83%が「よく出来ている」「大体出来ている」と回答しています。また、「授業中、話をしっかり聞くこと」でも高学年児童の約93%が「よく出来ている」「大体出来ている」としています。低学年では高学年ほど数値は高くありませんが、学年を追って「話を聞く」指導が定着していっていることがうかがえます。



同じ項目の保護者のアンケートに目を向けると、「ノートをしっかり書くこと」については、29%が「あまりできていない」「わからない」となっています。これは、子どもたちが自己評価で答えているのに対し、保護者の方には「～なってほしい。」という願いを込めて評価してもらっているからだと思われます。参観日以外の普段の授業についてとなると分かりにくいように思われ、評価しづらいというお声もありました。しかし、「今、どんな勉強しているの?」と関心を持っていただき、「このノートのまとめ方は分かりやすいね」など良いところを褒めてもらったり、「～したらもっと見やすくなるよ」などのアドバイスをもらったりすることで、子どもたちの学習に対する意欲がますます上がると思います。教職員の85%が「よく出来ている」「大体出来ている」と回答しているのは、普段の子どもたちの頑張りを身近に見ることができるからだだと思います。この頑張りを保護者の方にもより理解していただけるように、おたよりや掲示で発信していくことが必要だと思われます。

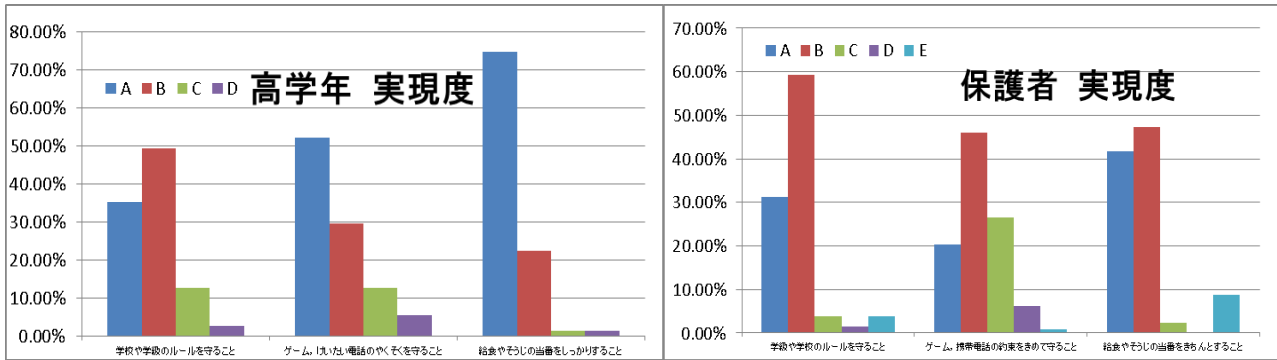
アンケートから見る課題点は、「授業中、進んで発表すること」です。「あまり出来ていない」「出来ていない」の回答率が低学年約16%、高学年約28%と高い数値であったことです。書いて考えたことを学級の人々に伝えることで思考に深まりが生まれ、他の人に理解してもらえよう論理立てて物事を考える習慣がつくと考えています。また、お互いの考えを話し、聞き合える集団は一人一人の学習意欲を高めることにつながるので、そのため授業中のルール of 徹底にも力を入れています。

学習面での保護者のニーズ度が一番高かったのは、「読書にすすんで取り組むこと」でした。図書館司書の先生に聞きますと、読書好きの子どもは毎日のように図書室へ通うのですが、なかなか本をじっくり読めない様子の子もいるようです。大切なことは、まず図書室に来て読みたい本を選ぶことだそうです。学校では、朝読書の時間にみんなで静かに本を読んでいます。また、年三回の読書週間の取り組みをして、読書についての働きかけをしています。今年度からは、一人一人の机の横に「図書バッグ」を掛け、ちょっとした時間でもさっと本を広げられるようにいつも「図書バッグ」の中に読みたい本が入っているようにしています。7月には『選書会』をひらき、子どもたちが図書室に置いてほしい本を選ぶ活動もしました。自分が選んだ本が図書室に入るということをきっかけに図書室へいざなうことができればと考えています。

ニーズ度：重要度に対して実現度が低いとき、ニーズ度が高いと表現します。（こうあって欲しいのだが、できていない状態）

規範意識について

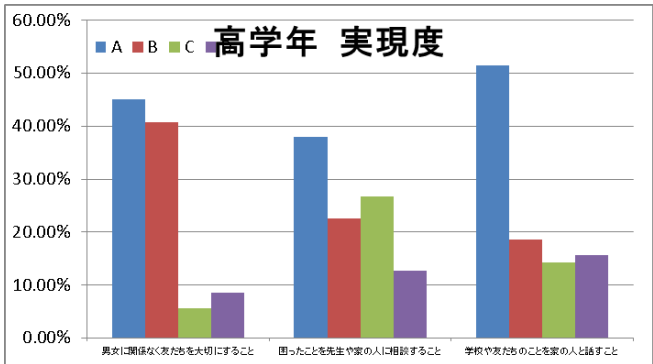
次のグラフは、子どもの規範意識に関する項目について実現度を示したものです。「学校や学級のルールを守ること」については、保護者においては100％、高学年では97％が「重要である」「やや重要である」と回答していますが、実現度を見ると低くなっています。



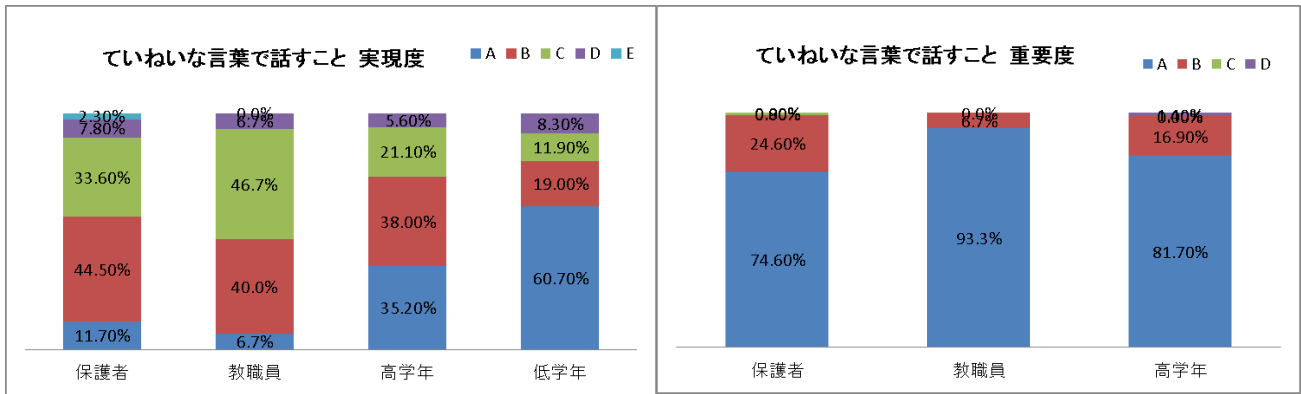
これは「約束は大事だ」ということは分かっている、なかなか守れていないという実感が子どもたち自身の中にあるようです。しかし、児童会が中心になって「廊下は走らないで歩こう」という目標をたて「歩こうキャンペーン」を実施したところ、廊下を走る子どもの数がぐっと少なくなりました。これは、子どもたちが自分たち自身で計画を立て、呼び掛けることで自らを振り返ることにつながり、低学年の子どもにとってよい見本になったようです。「テレビ・ゲーム・携帯電話の約束をきめて守ること」は、保護者のニーズ度第3位でした。子どもたちの自己評価では82％が「よく出来ている」「大体出来ている」と回答していますが、保護者側から見るとなかなか「出来てはいない」様子が伺えます。「毎日宿題をすること」が重要…94％、「自学ノートに続けて取り組むこと」が重要…91％と回答している子どもたちですが、テレビ・ゲーム・携帯電話の時間が長くなると宿題や自学ができなくなってしまうようです。大人と一緒にどうしてルールが必要かを考え、しっかり守れるようにフォローすることが大切だと考えます。

規範意識が高いということは、ルールがなぜ必要かよく理解できているということです。つまり、みんなのためのルールであり、それを守ることによって自分も大切にされるということです。右のグラフを見ると、85％の高学年の子どもたちは友だちを大切にできていると答えています。

ただ気になるのは、高学年の約40％が「困ったことを先生や家の人に相談すること」が出来ていないと答えています。低学年では約90％が「出来ている」と答えているので、思春期に入る高学年の成長段階の特徴ではあると言えますが、大人からの働きかけが必要と学校では考えています。今年は、学校で年2回実施している「いじめアンケート」をもとに、児童と担任が1対1で話し合う『児童面談』を行い、集団の中では言い出しづらい出来事や困ったことなどを相談する時間をとるようにしています。今後も、一人一人の話をよく聞いて、指導に生かしていくことが必要と考えます。



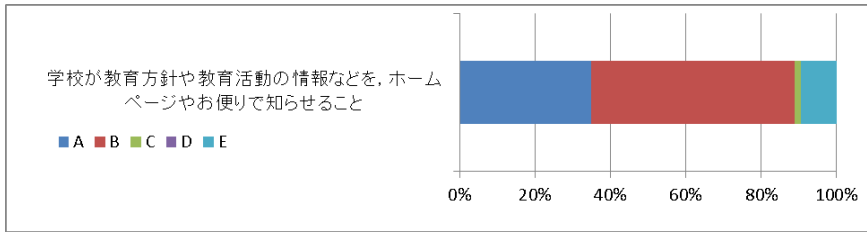
生活面について



保護者のニーズ度の一番高かった項目は、「ていねいな言葉で話すこと」でした。約99％の方が「重要である」「やや重要である」と回答していますが、実現度を見ると「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせても約56％です。教職員においても同じ傾向で、重要度では100％が「重要である」「やや重要である」と答えています。子どもたちの意識を見てみると、高学年では約73％、低学年で約80％が「よく出来ている」「大体出来ている」と回答しているので、「ていねいな言葉で話すこと」の意識に少しずれがあるようです。学校でも「授業中」「休み時間」「目上の人と話す」「友だちに話す」などの場面を見ていますと、「授業中」「目上の人と」話すときには言葉に気を付けて話せているように感じます。しかし、友だち同士になるとついつい乱暴な言葉で話してみたり、相手の気持ちを考えず命令口調になったりする場面も見受けられます。トラブルなどで感情的になってしまうともっともいやな言葉を口にする場面もあります。しかし、本当の自分を言葉でていねいに表現することによって、互いの気持ちが通じ合ったり相手を理解したりできるようになります。今後も、ていねいな言葉で話すことの意識を高める働きかけが必要と感じます。

その他

右のグラフは「学校が教育方針や教育活動の情報をホームページやお便りで知らせること」の保護者の実現度です。2年前のアンケートでは、似たような項目「学校が教育方針や教育活動の情報を発信すること」で約17％が「あまり出来ていない」～「わからない」という回答でした。今年のアンケートではその値が約11％になりました。これは多くの保護者の方が学校の情報に関心を寄せていただき、ホームページを見たりお便りを読んだりしていただいている結果だと思えます。学校は、これからも教育方針や教育活動についての情報を発信していき、保護者との連携を深めていきたいと考えています。

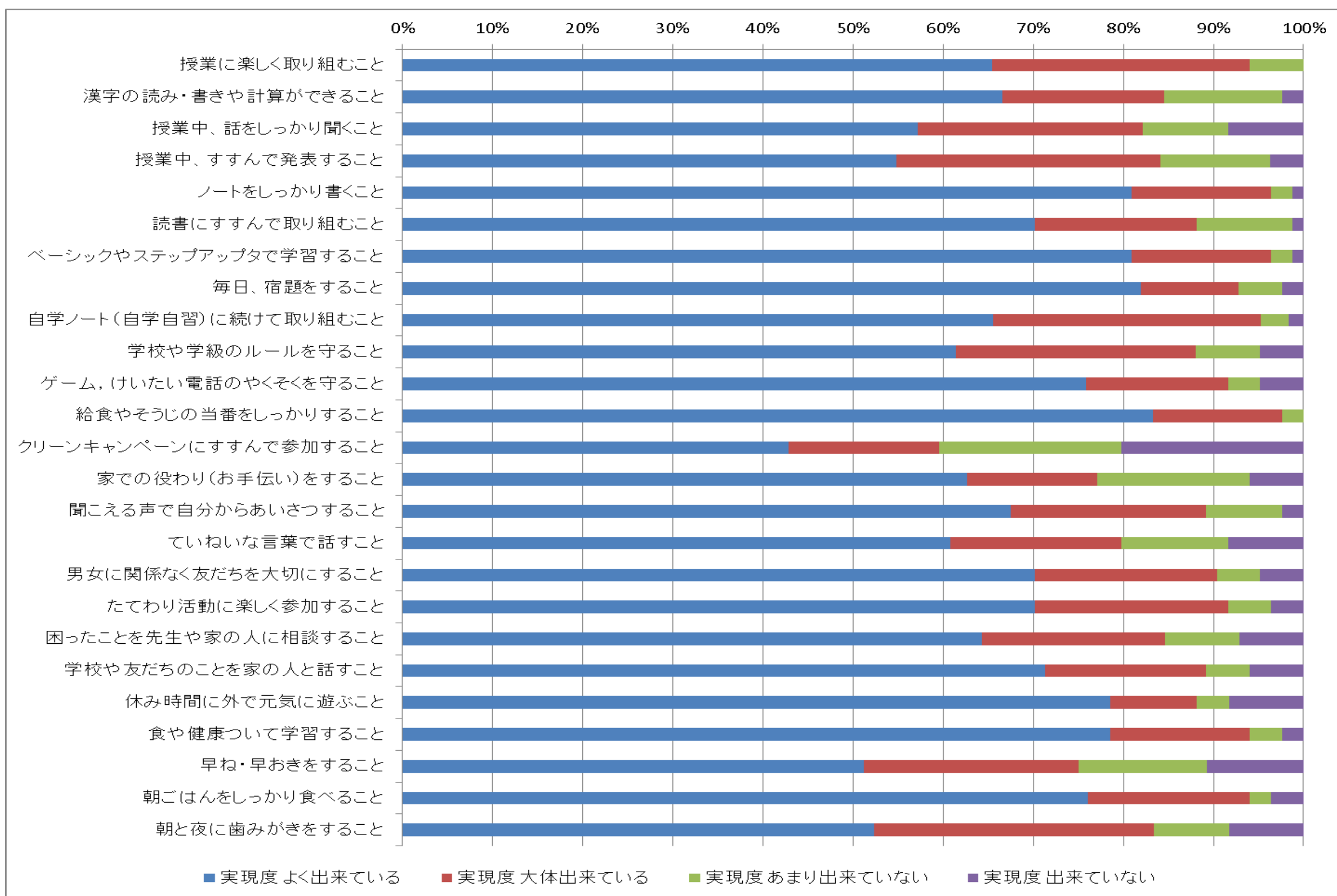


今年、学校で年2回実施している「いじめアンケート」をもとに、児童と担任が1対1で話し合う『児童面談』を行い、集団の中では言い出しづらい出来事や困ったことなどを相談する時間をとるようにしています。今後も、一人一人の話をよく聞いて、指導に生かしていくことが必要と考えます。

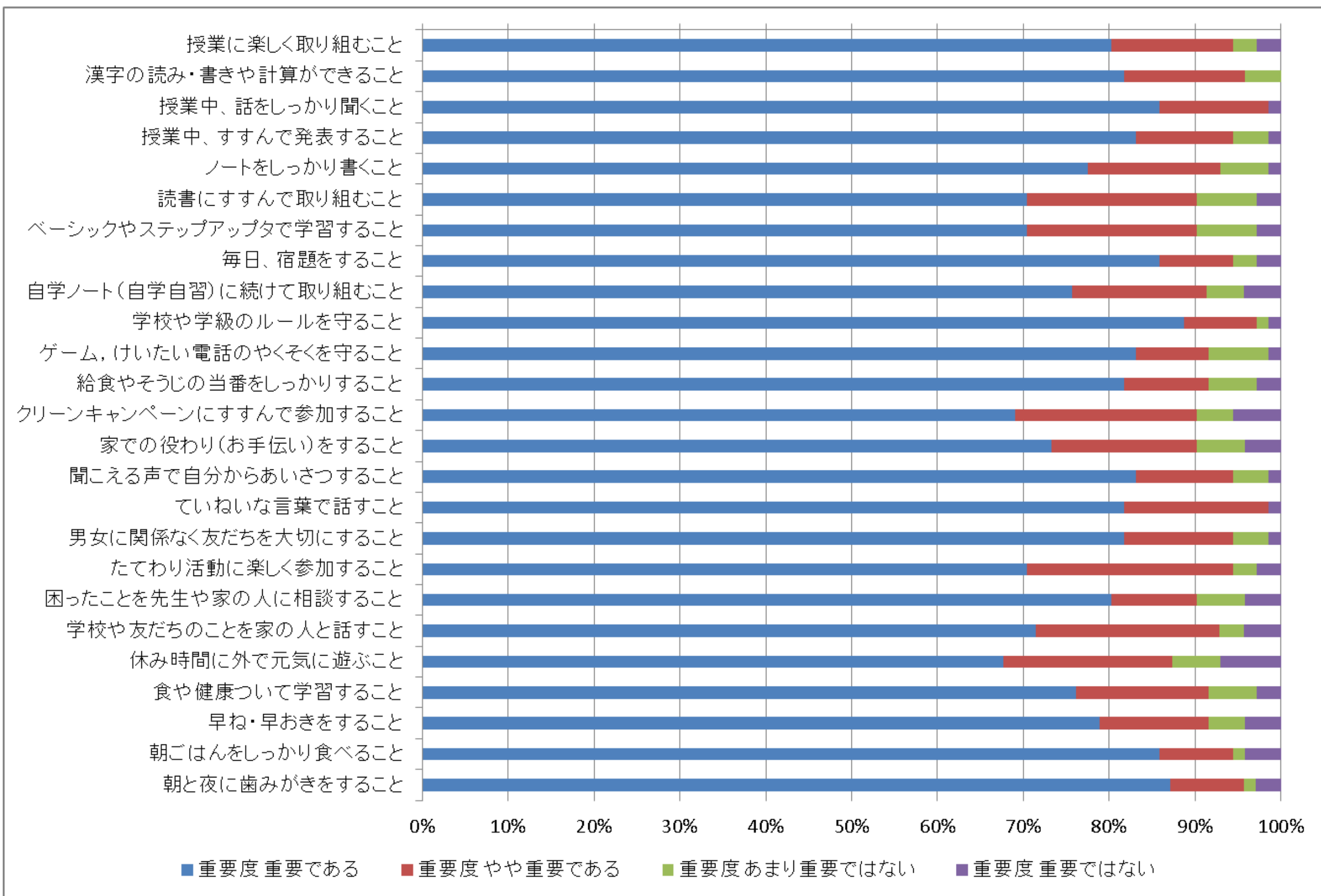
学校運営協議会より

学校運営協議会では、課題であるすすんで読書する子を増やす取組や日常のルールについて話し合われました。学校での取組が、習慣になるには時間がかかるだろうけれど、粘り強く続けていくことで成果が少しずつ表れていくだろうという意見をいただきました。

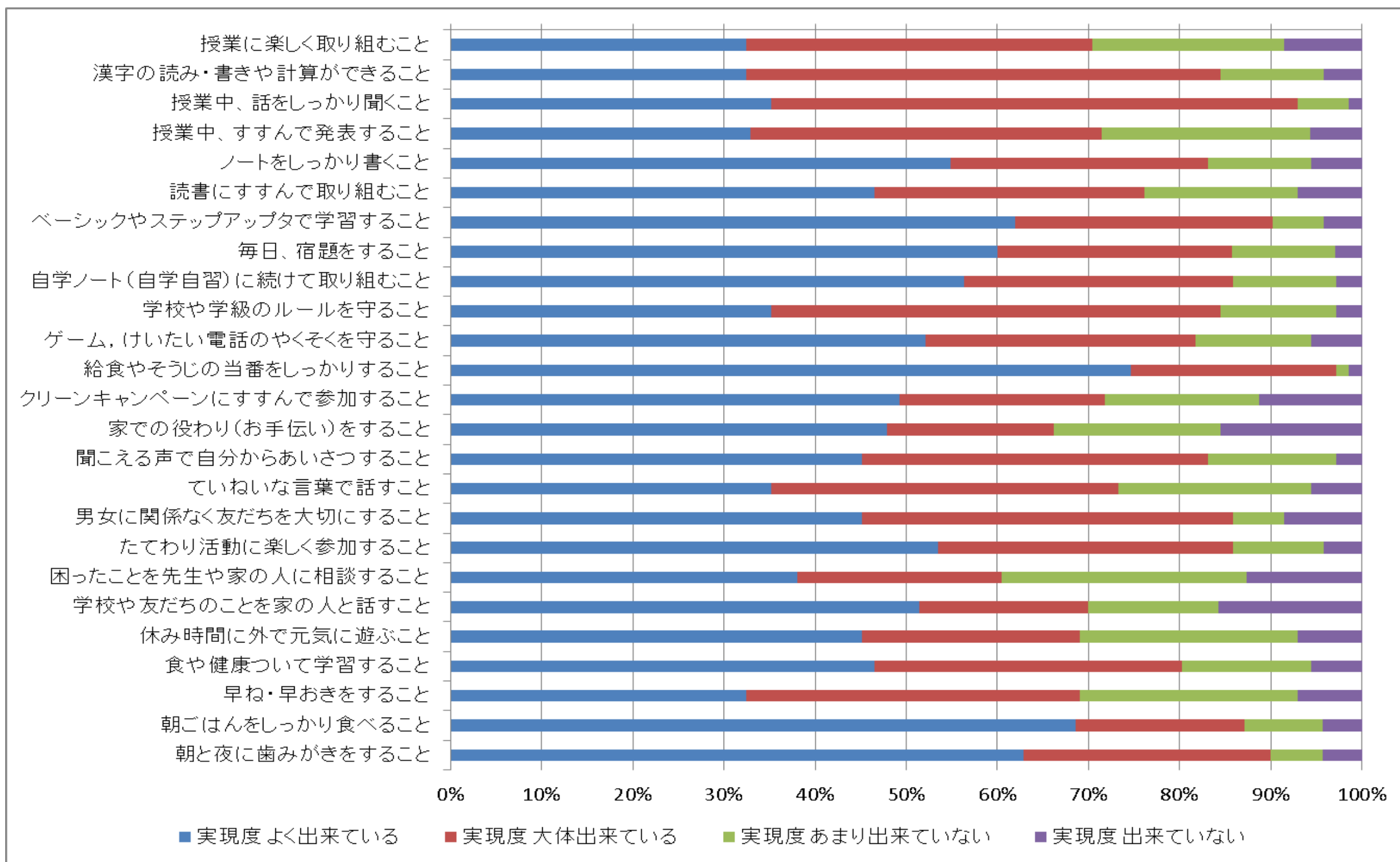
H 2 8 学校評価 低学年 実現度

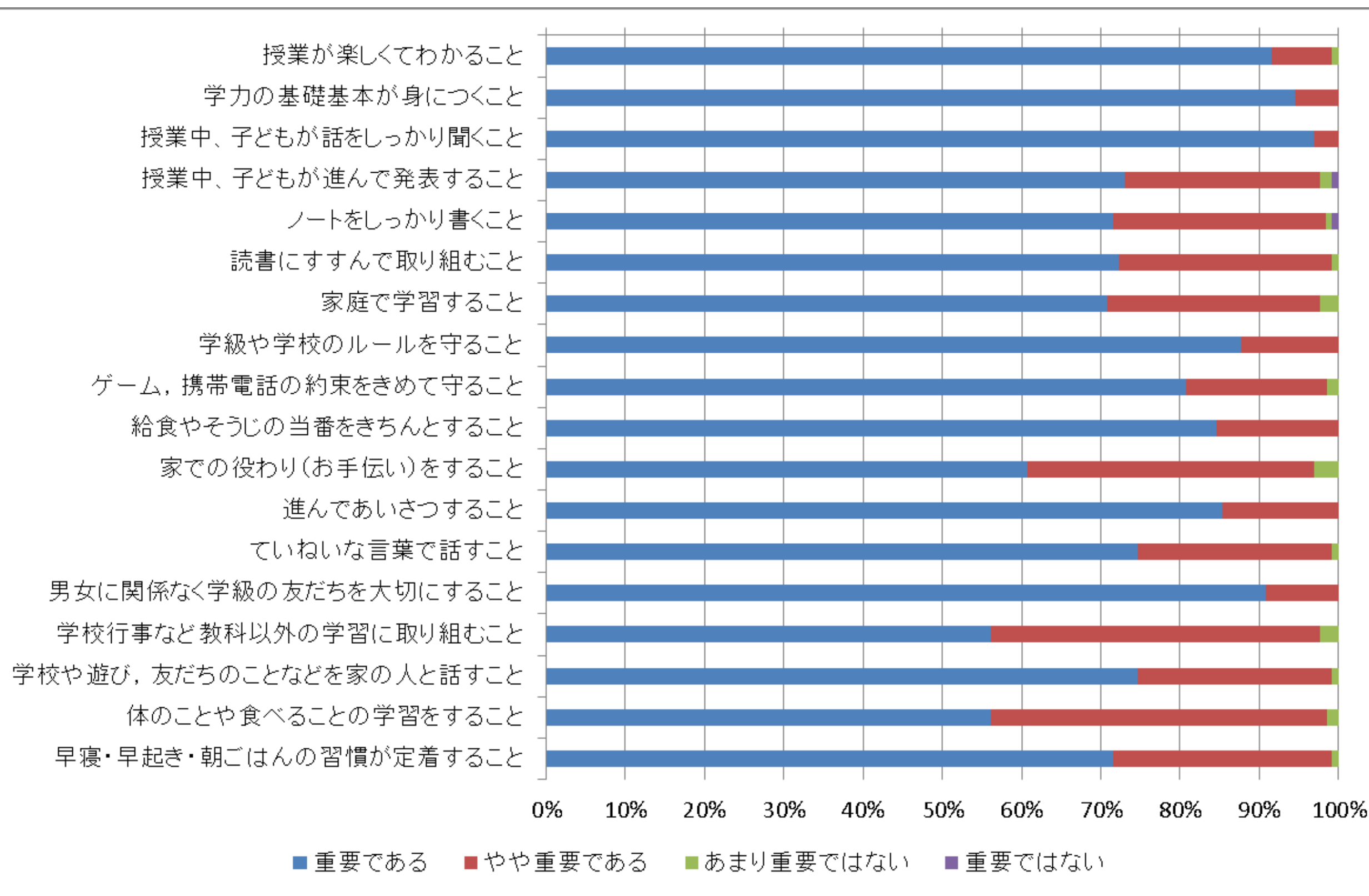


H 2 8 学校評価 高学年 重要度



H 2 8 学校評価 高学年 実現度





H 2 8 学校評価 保護者 実現度

